

『不都合な真実』～地球温暖化問題とSRI～

西谷由布子(SIF-Japan 運営委員)

vol.36

ちまたでは、米国元副大統領のアル・ゴア氏の地球温暖化問題を取り上げた映画「不都合な真実」が国際的にヒットし、先日アカデミー賞のドキュメンタリー部門も受賞しました。

私もこの映画を観てきましたが、映画の中で、ゴア氏は地球温暖化問題を「モラル」の問題だとし、行動を起こすことが重要だと訴えていました。

また、先月初めにIPCC(気候変動に関する政府間パネル)が発表した報告書は、地球温暖化の原因を人間活動によるものとほぼ断定し、地球温暖化の深刻さについて警鐘を鳴らしました。

台風やハリケーンの大型化、世界各地で多発する異常気象・・・地球は私たちに必死に訴えかけているのかもしれない。

そんな中、企業や個人も様々な取り組みを進めています。

世界中の機関投資家が協働して世界の 2,400 社以上もの企業に対して気候変動問題への戦略や対応について情報開示を求める GDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)や、米国を中心とする世界の企業や組織が署名した気候変動に関する世界円卓会議(米国コロンビア大学地球研究所主催)による共同声明の発表や、個々の企業レベルにおいても、自社の排出する CO₂を様々な手法(植林や再生可能エネルギーへの投資、排出権の購入など)で相殺して実質的にゼロとする「カーボン・ニュートラル」への取り組みなど、様々な活動が行われています。

気候変動問題、地球温暖化問題は、いまや人類共通の最も大きな課題の一つであり、この問題への戦略や対応が、将来の企業のあり方や成否に大きな影響を及ぼす重要なファクターの一つであると認識されつつあるようです。

個人レベルでも、自分の排出する CO₂の及ぼす影響について、意識が高まっているようです。海外では、自動車走行や渡航など特定の活動によって排出されるCO₂を計算したりカーボン・オフセット(CO₂排出量の相殺)もできる情報やサービスを提供する WEB サイトやカーボン・オフセット仲介業者が多く存在します。「カーボン・ニュートラル」な結婚式もあるとか。

英国では、個人に対して排出枠(炭素ポイント)を設定する制度も検討されているようです。



もしかしたら、将来日本でも、自分が排出する CO2が記録されてオフセットしなければならない、できなければペナルティーを負わなければならない日が来るかも？・・・CO2貯金とか、CO2債務とか？・・・なんて、想像してしまいました。

SRI も CSR も、究極の目的は持続可能な社会・持続可能な企業の実現であると考えますが、人類共通の財産であるかけがえのない地球の存在、健全な地球の姿なくしてはありえません。

当たり前すぎて普段私たちが忘れがちなこと、あるいは敢えて「不都合な真実」として見過ごしてきたことに対して、手遅れにならないうちに、それぞれが「モラル」を持って、行動していかなければならないのではないのでしょうか。

